

糖尿病センター開設 1 年後の報告

令和 6 年 1 月から糖尿病センターを開設し、1 年が経過しましたので運用状況等の報告をさせていただきます。

当センターは、糖尿病・内分泌内科を中心に、職種や診療科の垣根を越えた総合的なチーム医療の実践により、良質な糖尿病治療を提供し、重症化予防に取り組んでいます。

当院が力を入れている糖尿病治療の 3 分野について説明させていただきます。

1. 血糖コントロール不良 2 型糖尿病の集約的治療

経口血糖降下剤を 3 種類以上内服しても HbA1c \geq 8.0%が継続する糖尿病、高血糖症状を伴い全身状態が悪化した糖尿病や糖尿病性ケトアシドーシスなどの急性合併症、併存疾患や患者さんの認知機能・生活環境などを加味して、一人一人に最適な治療を提案し、他科、他職種と連携して集約的治療を行っています。「外来インスリン導入」を標準治療とし「糖尿病チーム医療」を支える熟練スタッフ（看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師）の指導によりインスリン注射、血糖測定、栄養指導を 3 時間で学習できる体制を整えています。

仕事や家事、育児や介護を理由に「入院できない」患者さんなどにはこのシステムを活用いただいています。

2. 最新機器を用いた 1 型糖尿病の緻密な血糖コントロール

basal-bolus 療法（一日 4 回のインスリン頻回注射）と間歇スキャン式 24 時間連続血糖測定を基本とし、積極的にインスリンポンプ療法を導入しています。事前準備等が前提条件ではありますが、インスリンポンプも外来導入が基本で毎週水曜日に「インスリンポンプ専門外来」を実施しています。

3. 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の厳格な血糖コントロール

妊娠特有の大きな血糖変動、ケトアシドーシスに傾きやすい代謝状況、妊娠糖尿病の管理を行っています。SMBG と isCGM を駆使した厳格な血糖管理、妊娠週数に応じた細かな栄養指導、分割食の指導を実践し、妊婦さんにはその必要性をわかりやすく指導し、「妊娠糖尿病教育入院」も実施しています。

また、プレコンセプションケア（妊娠前血糖コントロール）の依頼も多くなってきました。

糖尿病センター実績

1. 紹介件数年次比較（総数）

	令和5年（1月～12月）	令和6年（1月～12月）
糖尿病・内分泌内科	581件	570件

2. 外来自己注射導入件数

	令和5年度	令和6年度
外来自己注射導入件数	166件	230件
在宅妊娠糖尿病患者指導件数	9件	33件

3. 栄養管理に関する指導件数（糖尿病・内分泌疾患患者限定）

	令和5年（1月～12月）	令和6年（1月～12月）
入院栄養指導	161件	215件
外来栄養指導	521件	805件
透析予防指導	0件	394件
外来 InBody 測定数	342件	483件

4. フットケア外来患者数

	令和4年度	令和5年度	令和6年（4月～12月）
フットケア件数	43件	43件	36件

5. 地域医療機関への訪問実績

令和6年1月～12月までに糖尿病センター長の柴崎医師がクリニック・医療機関を28件訪問し、糖尿病センターの取り組みや医療ニーズの把握と情報収集などを行っています。

また、ホームページの「糖尿病センター便り」を定期的に更新し、センターの情報発信にも力を入れています。

6. その他

入院患者さんに対しては、毎週「糖尿病チーム医療カンファレンス」を開催し多職種で情報交換を行い、今後の治療方針について話し合っています。

市民公開講座では「糖尿病治療を知ろう」のテーマで講演や、枚方市地域包括支援センターからの依頼で、看護師やケアマネジャー、ヘルパー向けの糖尿病治療に関する研修を実施しました。

また、入院中の患者さんがインスリンポンプ導入後、転院する症例がありました。その際、事前に医師が転院先の病院に出向き、インスリンポンプの出前講座を行うなど、転院先でも安心して継続治療ができる取り組みも積極的に行っています。

昨年11月に開催しました「ひらかた10フェス」には、糖尿病センターの医師数名が糖尿病ブースを開設し、市民の方に糖尿病の予防、治療について説明するなど、住民の健康増進サービスにも力を入れています。

糖尿病センター開設から一年が経過しましたが、地域医療機関から糖尿病センターにコンスタントに紹介をいただいております。

糖尿病の急性期合併症の依頼に関しては、断らず受け入れをさせていただいております。

紹介いただいた医療機関への丁寧な受診報告や確実な返書、逆紹介、訪問活動や講演などを通して、今後も地域のクリニック、医療機関と顔の見える連携に努め、より一層信頼関係を高めていきたいと考えています。